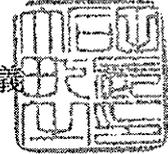


大建管収第464号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

大石田町長 阿部 孝 義



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付、国道企第37号にて依頼のありました標記のことについて、別添のとおり提出いたします。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

- 道路交通網の整備により、現在は、産業の集積、通勤等をはじめ観光面においても、県内にとどまらず、より広域化している。しかしながら、隣県へとつながる国道（特に山間部の道路）などが、まだ未整備の道路もあり、冬期間通行止めとなるなど広域的なつながりを阻害している要因となっている。年間を通じてアクセスできる道路網の早期整備を望むものである。  
（隣県の市町村と接しているにもかかわらず、冬期間閉鎖により遠回りをよぎなくされる。）
  
- 道路整備を実施するうえで、交通量や対象世帯、人口等が関わってくるが、地方においては、必ずしも数だけでは計りきれないものがある。事業の判断基準として「費用対効果」とよく言われるが、一方では、国土の開発発展が均衡になされる条件づくりという基本的な国民合意の上になりたっているわけです。首都圏と地方とでは、実態、抱えている条件が異なることは当然ですから、地方の実情を再認識し、全国画一的な捉え方ではなく、地方にあった選択的な幅を持たせる必要がある。

○現状

当町は、県内でも有数の豪雪地帯である。町道等の舗装はある程度進んでおり、また、消流雪整備も、国土交通省をはじめ、山形県のご協力により、順調に整備が進行中であり、冬期間における住民生活に多大な恩恵をいただいている。

○課題

降雪や除雪等の影響で、舗装の傷みが激しく、住民からの修繕要望が数多く寄せられてくる。優先順位を付けながら対応しているが、雪融け後の舗装補修に毎年費用がかさみ、苦慮している。現時点では、簡易的な改修（パッチング等）しかすることができず、再整備することは非常に難しい状況にあり、根本的な解消までは至っていない。簡易改修では、充足できない場合が多いというのが雪国の実態であることを認識してもらいたい。

また、冬期間の安心安全な道路を確保するため除雪を行っているが、毎年莫大な費用がかかる。きめ細やかな除雪を心掛けているが、すればするほど費用が嵩むため、どうしても行き届かない場合もある。

補修事業や除雪費用に対しての補助等があれば、より住民の要望に応えられると考える。

道路と住民生活とは、切っても切れない関係にあり、道路整備は住民の生活基盤を支える最も重要なものである。住民がより安心でより快適な暮らしができるよう、道路整備を最優先課題として引き続き進めていく必要がある。

当町では、流雪溝を管理するため、関係地域住民が主体となり管理運営組織を設立し、その運営にあたっており、現在も順調にその役割を担っていただいている。これまでのような行政主体の管理運営では限りがあり、住民自らが「自分たちの地域は自分たちでやっていく」という意識を持ち、行政と協力し合って事業を展開していくことが大切であると考え。住民の意識改革や啓蒙を図り、住民参加型の施策（事業の展開）を実行していく。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

山形県大石田町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の活用	①地域住民による道路パトロールの強化 ②地域ボランティアによる道路清掃や草刈り、 街路樹の剪定等	①細部まで点検ができ、危険箇所を 早期に発見し、事故の未然防止に つながる。 ②住民の活力を得、環境美化が図ら れるとともに、住民と行政の共生の 意識付けにもつながる。	